



日本音楽教育学会ニュースレター 第76号

目 次

1 学会からのお知らせ

- 1. 日本音楽教育学会第50回大会（東京）大会のご案内 佐野 靖 2
- 2. シンポジウム「芸術教育の未来」報告 今川 恭子 3

2 委員会からのお知らせ

- 1. 編集委員会からのお知らせ 水戸 博道 4
- 2. 学会賞審査委員会からの報告 今川 恭子 4
- 3. 会長・理事選挙のお知らせ 水崎 誠 5
- 4. 第9回夏季ワークショップ in 弘前（第二次案内）つくってあそぼう
―地域の芸術経験を目指して― 高橋 憲人 5

3 音楽教育の窓

- 1. 〈連載〉音楽・教育・学校（19）
生徒たちはなぜ楽譜が読めるようにならないのかーコダーイ・メソッドと学校教育ー
..... 中村 隆夫 6
- 2. APSMER 2019 マカオ大会のお誘い 駒 久美子 7
- 3. 土井道子記念京都哲学基金主催 シンポジウム「日本哲学と音楽」 今田 匡彦 7
- 4. 2019年度に開催される音楽教育に関わる学会研究会等の情報 8

4 会員の声

- 1. 教員養成大学における授業実践を伴う日本音楽の学び 長谷川 慎 9
- 2. 会員の新刊・近刊等紹介 10

5 報告

- 1. 2019年度第1回常任理事会 11
- 2. 2019年度第1回理事会 12

- 6 事務局より 16
[編集後記]

1 学会からのお知らせ

1 日本音楽教育学会 第50回大会のご案内（第1報）

大会実行委員会委員長 佐野 靖

本学会は、今年で設立50周年を迎えます。大きな節目となる第50回大会は、2019年10月19日(土)・20日(日)の2日間、東京藝術大学で開催いたします。第49回岡山大会の「音楽教育学の地平を拓くために」、そして2019年3月に開催されたシンポジウム「芸術教育の未来」の趣旨を受け継ぎ、隣接諸科学の知見も交えながら、「これからの音楽教育研究のあり方を展望する」大会にしたいと考えております。

口頭発表・ポスター発表に共同企画、さらには常任理事会・国際交流委員会の共同企画によるプロジェクト研究など、盛りだくさんのプログラムが予定されております。

歴史的建造物や博物館・美術館に囲まれた「文化の杜」である上野の地におきまして、実行委員会一同、皆様のお越しを心よりお待ちしております。

【日程表（暫定）】

10月19日(土)									
9:00	9:30	12:15	13:15	14:55	15:10	16:55	17:00	18:00	20:00
受付・打合せ	口頭発表・ポスター発表	昼休憩	ご挨拶 〈実行委員会企画〉 シンポジウム	休憩	〈常任理事会・国際交流委員会企画〉 プロジェクト研究		総会	情報交換会	

10月20日(日)							
8:30	9:00	12:15	13:15	14:45	15:00	16:30	
受付・打合せ	口頭発表・ポスター発表	昼休憩	共同企画	休憩	共同企画		
		12:00	13:30				
		院生フォーラム					

【実行委員会企画：音楽教育学を展望する——隣接諸科学からの期待——】

大会実行委員会企画として、下記の3名の研究者をお迎えし、シンポジウムを開催します。専門的な見地から様々なご意見、ご指摘をいただくとともに、分野・領域をこえて忌憚のない意見交換を行い、これからの音楽教育研究の在り方を多様な方向から探り考えるシンポジウムにしたいと思います。

〈シンポジスト〉・海部陽介氏（人類進化学，国立科学博物館）

・岡田 猛氏（心理学，東京大学）

・古屋晋一氏（音楽医科学，ソニーコンピュータサイエンス研究所）

（司会） 佐野 靖

【院生フォーラム】

岡山大会に引き続いて、グループディスカッションの形を取ります。多様な立場の大学院生が意見交換を行い、それぞれが抱えている現実的な課題や将来に対する不安、そして期待などを参加者全員で共有したいと思います。

申し込み先は、8月末発行の「ニュースレター」の「第2報」及び学会大会ホームページでご案内します。

【東京藝術大学へのアクセス】

〒110-8714 東京都台東区上野公園 12-8
Tel. 050-555-2013

JR 「上野駅」(公園口)・「鶯谷駅」下車 徒歩 10 分
東京メトロ 銀座線・日比谷線 「上野駅」下車徒歩 15 分
千代田線「根津駅」下車徒歩 10 分
京成電鉄 「京成上野駅」下車徒歩 15 分



② シンポジウム「芸術教育の未来」報告

会長 今川 恭子

2019 年 3 月 2 日 (土)、芸術教育に関わる 2 つの学会、日本音楽教育学会と美術科教育学会の共催により、本学会設立 50 周年プレ企画でもあるシンポジウム「芸術教育の未来」が聖心女子大学で開催された。冒頭で宮田亮平文化庁長官が芸術教育の真価と両学会への期待を語り、小学生参加による造形活動、西川伸一氏による基調講演に続けて、「音楽授業を考える」と題して、大学生参加による 2 種類の模擬授業の映像が紹介された。授業内での談話分析比較が提示され、これをめぐって益川弘如氏より学習科学の視点からのコメントがなされた。最後に音楽・美術両学会長と講演者が登壇し、芸術教育のこれからについて意見交換した。

人間が人間らしく在るために芸術教育が不可欠であることを謳い、音楽科の存在を未来につなぐ使命を再認識する一日であった。内容の詳細は今後報告書等を通じて公開していく予定である。



【写真 左から 今川恭子, 西川伸一氏, 益川弘如氏, 水島尚喜氏】

2 委員会からのお知らせ

1 編集委員会からのお知らせ

編集委員長 水戸 博道

昨年度スタートいたしました新体制の編集委員会も発足より1年が経ちました。編集委員会では、できるだけ掲載論文を増やすという目的のもと編集に取り組んできました。しかし、残念ながら研究論文の掲載数は伸び悩んでおり、論文の質の維持と掲載率の向上という、場合によっては相反する目標の達成に苦しんでおります。ただ、過去に不採択となった論文が課題を克服して再投稿され、それが掲載にいたるケースもあり、編集委員会からのフィードバックがこうした形で実るのはうれしいことです。

編集委員会では、投稿された論文に課題があっても、できるだけ修正を加えて掲載に持ち込むことを目指しております。しかし、先行研究のレビューが著しく少ない、研究の問いが明確でない、研究方法が詳しく示されていない等、論文の根本的構成に関わる課題は短期間の修正では解決しない場合もあります。音楽教育研究では、必ずしも科学論文の伝統的な形式にとらわれる必要はなく、論文の形式そのものに独創性があっても良いと考えます。しかし、先行研究の漏れのない検討に基づき研究の問いをたて、そこから適切な研究方法を用いて結論を導き出すという論文の骨格に関わる条件が備わっていることが、研究論文としての採択の前提となります。投稿前に、こうした段階からご検討いただけると幸いです。

2 学会賞審査委員会からの報告

学会賞審査委員長 今川 恭子

2019年4月28日開催の学会賞審査委員会にて、以下のように、第6回学会賞の受賞者が選ばれました。なお、授賞式は2019年10月19日、日本音楽教育学会第50回大会（於 東京藝術大学）にてとりおこなわれます。

第6回学会賞受賞者：黒田清子氏・伊野義博氏・権藤敦子氏

受賞対象論文：「音楽文化の視点から教科内容としての『歌うこと』を捉え直すブータンの掛け合い歌に見られる双方向性をてがかりに一」（『音楽教育学』第47巻第1号）

選出理由：同論文は、「歌うこと」を音楽文化の視点から再考するという明確な問題意識に基づいて、ブータンの掛け合い歌の双方向性と、そこから培われる幅広い資質・能力、メタファーに込められた価値観・世界観等を、綿密なフィールドワークから生き生きと描出した。学校教育における「歌うこと」への価値ある示唆ともなっており、音楽教育研究の発展に資する論文として第6回学会賞にふさわしいものとして選定した。

*なお、今回は受賞候補論文の中に、審査委員が連名執筆者である論文が含まれていました。その他にも共同研究、指導関係等で委員が特別の利害関係にあると考えられる論文が複数ありました。そこで審議に先立ち、委員会規定第2条（5）に照らして委員は該当する論文の評価には一切かわらないことを確認したうえで、公正な審査をおこなったことを併せて報告いたします。

③ 会長・理事選挙のお知らせ

選挙管理委員長 水崎 誠

「第 24 期日本音楽教育学会会長・理事選挙」の投票
2019 年 7 月 1 日（月）（当日消印有効）締め切り

今年度は会長・理事選挙の年です。会員の皆様には 2019 年 6 月に被選挙者名簿と投票用紙等、選挙関係書類一式を郵送でお送りします。投票〆切は 7 月 1 日（月）当日消印有効となっておりますので、ぜひ投票していただきますようご協力よろしくお願いいたします。この選挙は、今後の学会活動の中心的役割を担う会長・理事を選出する選挙です。みなさまの貴重な一票により、学会のさらなる発展のためにふさわしい会長・理事が選出されますよう期待しています。

④ 第 9 回夏季ワークショップ in 弘前（第二次案内） つくってあそぼう

—地域の芸術経験を目指して— 弘前ワークショップ企画立案リーダー 高橋 憲人

日 時：2019 年 8 月 11 日（日）・12 日（月・祝）

場 所：スペース・デネガ（青森県弘前市上瓦ヶ町 11-2）<http://spacedenega.blogspot.com>
JR 弘前駅より徒歩 11 分

参 加 費：会員 1,000 円（非会員 1,500 円）※大学生以下無料

参加申込：HP 内の申込フォームよりお申し込みください。

<https://onkyoikuhirosakiws.wixsite.com/home>

申込〆切：7 月 31 日（水）〆切予定

問 合 せ：onkyoiku.hirosakiws@gmail.com（専用メールアドレス） QR コードからもアクセス可



タイムスケジュール：時間は目安ですので、前後することがあります。

	活 動 1	活 動 2	休 憩	活 動 3
第 1 日目 8 月 11 日（日）	13:00-14:00 即興演奏教育／創造的音楽 学習／図形楽譜を用いた 教育実践等の現状レビュー	14:00-16:00 サウンドペインティングを やってみる	16:00-16:15 小 休 憩	16:15-17:00 実践の振り返り／ ディスカッション
第 2 日目 8 月 12 日（月）	10:00-11:00 スタンピング体験	11:00-12:00 スタンピング作品を図形楽 譜に見立てて演奏してみる	12:00-13:00 昼 休 憩	13:00-14:00 教育現場やコミュニティ への応用可能性について のディスカッション

持 ち 物：音の出るもの（既成の楽器、手づくり楽器、日用品も可）

インクを付けて押しつけた際に模様が出そうな日用品（梱包材、ネット、紐など）

実行委員：今田匡彦，長谷川諒*，高橋憲人*，甲斐万里子，金崎惣一，木下和彦，高橋潤子，千葉修平，
外崎純恵，藤尾かの子，前田一明（*企画立案リーダー，ファシリテーター）

弘前市へのアクセス：弘前観光コンベンション協会 HP

（<https://www.hirosaki-kanko.or.jp/web/edit.html?id=access01>）をご覧ください。

※ 宿泊は旅行サイト等で各自お申し込みください。

会場最寄のホテル（徒歩 1 分）は、弘前パークホテルです。

3 音楽教育の窓

〈連載〉音楽・教育・学校 (19)

1 生徒たちはなぜ楽譜が読めるようにならないのか—コダーイ・メソッドと学校教育—

中村 隆夫 (北海道教育大学名誉教授)

○合唱に「音取り」は必要か

10 年ほど前、他学会で「音取りをしない合唱—合唱訓練法の実際」という発表を行った。合唱は正しく取り組めば「音取り」なしで十分に可能、という私の主張に対し「自分の生徒たちでは無理」とか、「そんなことが可能とは思えない」という反応が大半だった。数年後、この発表を伝え聞いた中学校教員 I 氏の来訪を受けた。予定されている大学院でそれを研究課題に設定し、平行して勤務校で実践してみたいという。修士論文は完成し、その成果は学校の授業の場でも着実に発展しつつあるという。

○学校教育では読譜指導は無理なのか

ある程度の教育を受けた人であれば、誰もが文字を読めるようになる。ではなぜ、誰もが楽譜を読めるようにならないのだろうか。おそらくその理由の第 1 は、教える側が「授業で読譜力を育てることは無理」と考えているからだ。つまるところ教員自身が効果的な指導法を知らず、生徒たちを楽しませることができないでいるからだ。一方ハンガリーの音楽教育は、子どもの成長に合わせた手順を踏めば誰もが楽譜を読めるようになると考え、身近な素材を階名唱（移動ドによる読譜）することを基礎に成果を上げている。これがコダーイ・メソッドの入り口である。

○自らの教育を振り返る

私はもともと音楽教育は専門ではなかったが、在職中にソルフェージュ、合唱、音楽教育などの授業をとおしてコダーイの教育理念を紹介し、ハンガリー式の指導法も伝授した。卒業生のうち毎年 4～5 名は教員になったので、その中から一人でも学校で実践すれば、10 年ほどであちこちにこれらを駆使した授業や、音取りをしない合唱が広がると思った。だが私の考えはあまりにも甘かった。卒業生たちは赴任するとその学校で行われてきた昔ながらの指導法に同化し、そこには私の教えたことなどかけらも見あたらないのだ。大学教育が無力なことを思い知らされ、衝撃を受けた一事象である。

○教師の本当の勉強は教壇に立ったときに始まる

私がかかわった卒業生たちは例外なくハンドサインを知っており、それを扱うことができる。なのに、前述したように実際の音楽の時間にそれを活用する人はまずいない。この現実には私は、大学で教えたことはすべて一過性のものだったのか、とさえ思ったほどだ。だがよく考えれば、教職に就いたかれらは、われわれが思うほど簡単に自らの考えを実践できる立場にない。日本ではまずは周囲と同じ行動をとることが基本とされる。ましてや新卒の教員であれば、先輩教員と異なる教え方などできるはずもない。そしていつの間にか、かつては批判的だった（かもしれない）教え方に自分も染まっていくなのである。

○コダーイ・メソッドはなぜ学校教育で広がらないのか

これに気づいた私は、少し前から卒業生を対象に現職教員のための勉強会を始めた。月に一度、コダーイ・メソッドに軸足を置くソルフェージュ指導法をともに学ぶことにしたのである。するとかれらは学生時代とは違う視点から教育を見つめ、授業のあり方を考えるようになった。じつは全国規模で見ると、コダーイの教育理念に立脚した教育を行っている指導者は何人もいる。現時点では相互の連携はほとんどないが、これらの人とともにネットワークを作り情報交換できれば、これまでの成果をさらに豊かにできるかもしれない。現在、その方策を模索中である。

2 APSMER 2019 マカオ大会のお誘い

駒 久美子 (千葉大学)

The 12th Asia Pacific Symposium for Music Education Research (APSMER) 2019 / ISME Regional Conference が2019年7月15日から18日までマカオにて開催されます。私が初めて国際学会でポスター発表したのが、2007年、バンコク（タイ）で行われた第6回 APSMER でした。英語も得意ではなく、緊張して心臓が口から飛び出しそうでしたが、私の研究に興味を持ってくださった海外の研究者と、つたないながらも意見を交わすことができたことは、ひとつの自信となりました。国際学会では、世界の音楽教育の動向を知ることができるのはもちろんですが、日本の音楽教育研究者たちと、自身の研究を通して交流を深めることができる機会でもあります。マカオまでは、東京から直行便で5時間30分、大阪から4時間30分です。すでに発表申込は締め切っていますが、まずは参加して一緒に国際学会の雰囲気味わってみませんか。詳細は apsmer.ipm.edu.mo/ をご覧ください。ぜひマカオでお会いしましょう。

3 土井道子記念京都哲学基金主催 シンポジウム「日本哲学と音楽」

今田 匡彦 (弘前大学)

紙幅が限られているので、ざっくりと云おう。19世紀の最後の10年辺りに、日本には「音楽」も「哲学」もなかった。ここで重要なのは「なかった」と気づく意識なのだが、その意識を持ちつつ、当時の日本人は、この「音楽」と「哲学」という、今日〈自然主義〉に対抗しうる二つの奇蹟について、まったく異なる立ち合い方をした。即ち、一方は〈西洋音楽〉の極々一部の移入にこだわり、もう一方はプラトン、アリストテレスなどの所謂〈純哲〉の移入に血道を上げつつ、同時に西田幾多郎を起点とする京都哲学を立ち上げたのだ。その京都学派が今回初めて「日本哲学と音楽」というタイトルの下、〈音楽〉という明治以来放逐された現象に対峙しようとした。2019年3月18,19日の2日間京都ガーデンパレスにて開催されたシンポジウムでの登壇者は以下の4人である。

- ・小野真龍 (天王寺舞楽協会常任理事/浄土真宗本願寺派願泉寺 住職)
「雅楽のコスモロジーと「近代」～日本哲学展開の一背景」)
- ・椎名亮輔 (同志社女子大学 教授)「音楽的時間と西田哲学」
- ・田邊健太郎 (立命館大学 非常勤講師/客員研究員)
「合奏における行為、意識身体—木村敏「あいだ」論への分析哲学的アプローチ
- ・今田匡彦 (弘前大学教授)

「子どもたちのための哲学音楽論：サウンドスケープとユニヴァーサル・デザイン」

〈音楽〉を〈言語〉により相同化しようとする音楽学は、結局括弧のとれたホリスティックな音楽を唯物論的に扱い矮小化し、自然科学（音楽教育学は脳科学を頼っている場合ではない！）が転んだ瞬間に真っ先に消滅する音楽の外側の学問だ、ということを、純哲の外側の西田学派の人々は、〈音楽教育〉という下位の（本気じゃないよ）の学問体系の発表に触れつつ理解するこの至福のとき、そのような快感を、本学会の大会や学会誌で一度も味わえないのはどうしたことか？ かつて「現代音楽は私」と云った三宅榛名^{ひそみ}の顰に習うなら、「音楽教育は私」、である、フフフ。

4 2019 年度に開催される音楽教育に関わる学会研究会等の情報

学会・研究会名	2019 年	開催場所	URL
日本保育大会 第 72 回大会	05.04-05	大妻女子大学	http://hoiku72.jp/
音楽教育史学会第 32 回大会	05.11	東京学芸大学	—
日本音楽知覚認知学会 2019 年度春季研究発表会	06.01-02	大阪樟蔭女子大学	http://jsmpc.org/
日本音楽表現学会 第 17 回 (かきつばた) 大会	06.15-16	愛知教育大学	http://www.music-expression.sakura.ne.jp/
日本カリキュラム学会 第 30 回大会	06.22-23	京都大学吉田キャンパス	http://jses.b.la9.jp/
日本赤ちゃん学会 第 19 回学術集会	07.05-07	聖心女子大学	https://sites.google.com/view/akachan2019/home
日本教育学会 第 78 回大会 (世界教育学会第 10 回東京大会同時開催)	08.05-08	学習院大学	http://www.jera78.jp/
日本学校音楽教育実践学会 第 24 回全国大会	08.17-18	畿央大学	http://jassmep.g2.xrea.com/
日本オルフ音楽教育研究会夏季セミナー	08.17-18	東京学芸大学芸術館	https://www.orff-schulwerk-japan.com/
全国大学音楽教育学会 第 35 回全国大会 (札幌大会)	08.22-24	札幌ガーデンパレス	http://www.nacome.com/
日本コダーイ協会全国大会 2019 in 東京	08.24-25	国立音楽大学 (新 1 号館)	http://kodaly.jp/tokyo2019/
音楽学習学会第 15 回研究発表大会	08.25	国立音楽大学	https://jsml.jp/
日本音楽療法学会第 19 回大会	09.20-22	大阪国際会議場 (グランキューブ大阪)	https://www.jmta.jp/event/
日本教師教育学会 第 29 回研究大会	09.21-22	岡山大学	http://jsste.jp/
教育史学会 第 63 回大会	09.28-29	静岡大学	http://kyouikushigakkai.jp/
日本教育方法学会 第 55 回大会	09.28-29	東海学園大学名古屋キャンパス	https://www.nasem.jp/
日本教科教育学会 第 45 回全国大会	10.13-14	愛知教育大学	http://jcrda.jp/
2019 年全日本音楽教育研究会全国大会 総合	10.31-11.01	練馬区立練馬文化センター	http://www.jsme.net/
〃 小学校		新宿文化センター	
〃 中学校		府中の森芸術劇場	
〃 高等学校		東京文化会館小ホール	
〃 大学		武蔵野音楽大学	
〃 特別支援学校		都立大塚ろう学校・都立永福学園	
日本音楽学会 第 70 回大会	10.19-20	大阪大学豊中キャンパス	http://www.musicology-japan.org/
東洋音楽学会 第 70 回大会	11.16-17	京都市立芸術大学	http://tog.a.la9.jp/meeting.html
日本ダルクローズ音楽教育学会 第 19 回研究大会	11.10	国立音楽大学	http://eurhythmics.jp/kiseki.html
12th Asia-Pacific Symposium in Music Education Research (APSMER)	07.15-18	Macao Polytechnic Institute	http://apsmer.ipm.edu.mo/
World Education Research Association 2019 Focal Meeting in TOKYO 10th Anniversary	08.05-18	The University of Tokyo (Aug. 5) Gakushuin University (Aug.5-8)	https://www.weraonline.org/
National Association for Music Education (NAfME)	11.06-10	Gaylord Palms Resort Orlando, Florida	https://nafme.org/2019-national-conference-and-all-national-honor-ensembles/

4 会員の声

1 教員養成大学における授業実践を伴う日本音楽の学び

長谷川 慎（静岡大学）

静岡大学（以下本学）に勤務して丸6年が過ぎた。私の専門は音楽教育学であり、大学教員としては「教科教育」の教員として「音楽科教育法」を始めとする多くの授業を受け持っている。また、同時に教員としての傍、地歌箏曲演奏家として演奏活動を行なっている。大学では着任以来、特に「日本音楽の指導」に関係した授業を担当してきた。本学では、日本音楽に関係した授業が免許法必修の「器楽」「声楽」「音楽史」の他にもいくつか設定されており、手前味噌ではあるが、学生に対し実技面と理論面で充実した学びを提供できているといえる。

本学では、1年次の前期に「器楽」「声楽」の一部として集中講義で非常勤講師による「長唄」「長唄三味線」の授業が開講されている。2年次は、前期に「音楽史」の中で日本音楽史を学び、後期には私が「音楽科教育法Ⅰ」で1時間のみではあるが箏を取り扱う。3年次も、前期に「音楽科教科内容指導論Ⅰ」で箏を、後期の「音楽科教科内容指導論Ⅱ」で三味線を指導し、実技はもちろんのこと楽器の取り扱い、音楽史、鑑賞法、指導事例など最低でも中学校器楽教科書程度の内容を指導できることを目標としている。さらにこの他2年次後期以降、希望者に箏、三味線、胡弓の個人レッスンを授業として行なっている。

これらの授業での学びを生かす形で、3年後期に設定されている「音楽科教育法Ⅳ」と「音楽教育総合研究」において、近隣の小中学校での箏授業、民謡授業、能楽授業などの授業実践を目的とした「教科専門」と「教科教育」の両側面からの日本音楽の学習を行なっている。先述のように私は「地歌箏曲」の専門家であり「民謡」や「能楽」の専門家ではない。しかし、地方の教員養成大学で勤務している以上専門外の音楽まで取り扱わねばならない。日本音楽と西洋音楽はある部分で対極にあると考えているが、「地歌箏曲」は「民謡」や「能楽」や「文楽」といった日本音楽の他の種目とある程度共通して捉えることができる。とはいえ、専門的には「地歌箏曲」以外は「素人」である。その点を補完するのが、一つに静岡県文化財団グランシップとの連携である。2年に1度、同財団の大学連携プログラムで能楽師の大倉源次郎先生（大倉流小鼓方・人間国宝）が来学、学生に直接指導いただいている。学生向けの能楽ワークショップでは、謡や鼓等実技の講習だけでなく、日本音楽や和 문화の、能楽師としての見方や考え方を学生に直接お話しいただいている。ワークショップ後、学生たちは中学校での実践のための授業案を立案し、模擬授業を行い、後期の最後に中学校で授業を実施する。この授業にも大倉先生が立ち会い、授業後の協議会では能楽師としての立場から指導助言をいただいている。授業を組み立てた学生たちの伝承者としての思いとが一つになる瞬間である。

これらの日本音楽の授業を通じて、学生たちは「概念」として日本音楽を捉えるだけでなく、実感を伴う生きた「体験」として日本音楽を語ることができるようになってきたと感じている。

伝統と文化の学習の充実は学習指導要領改訂の大きなポイントの一つである。しかし、まだまだ学校教育で日本音楽を取り扱うには様々な困難がある。その理由の一つには、現代人の生活から日本音楽とがあまりにもかけ離れた存在になっていることが挙げられよう。大学入学時には未知の世界であった日本音楽を、授業を通して自らの音楽経験の一つとして子どもたちに語り、実践できる教師を養成できるよう同僚教員と協働しつつ、日々試行錯誤の連続である。

2 会員の新刊・近刊等紹介

★嶋田由美著『唱歌教育の展開に関する実証的研究』

学文社 2018/12/5 B5・276 頁 ISBN978-4-7620-2853-3 [本体 4,800 円＋税]

1890 年以降の約 20 年間に唱歌教育の展開期と捉え、主教材であった数えうた・軍歌・郷土地理唱歌・歴史唱歌の収集と分析を通して、この時期の唱歌教育が徳目を扱った歌詞の問題として考えられ、それが故に学校教育で必須の教科としての位置づけを得た過程を明らかにした。

★北山敦康編著『平成 30 年版 学習指導要領改訂のポイント 高等学校 芸術（音楽）』

明治図書 2019/3/1 B5・128 頁 ISBN978-4-18-330816-0 [本体 2,260 円＋税]

平成 30 年版学習指導要領改訂の方向性を、10 のキーワードと 16 の題材で徹底解説。「見方・考え方」を理解し「主体的・対話的で深い学び」の授業を実現するポイントがつかめる。巻末付録の小、中、高の指導要領系統表では、小～高校までの一貫性を一目でチェックできる。

★日本音楽の教育と研究をつなぐ会編著／徳丸吉彦監修^{しょうが}『唱歌で学ぶ日本音楽』(DVD 付き、音楽指導ブック)

音楽之友社 2019/3/31 B5・128 頁＋DVD2 枚 ISBN978-4-276-32170-0 [本体 3,300 円＋税]

唱歌(口唱歌)の魅力を伝える DVD ブック。第 1 部で口頭性と書記性をつなぐ唱歌の本質を捉えた上で、第 2 部で雅楽・能・箏曲・長唄・祭囃子の 5 種目の伝統音楽を、専門家の手本演奏だけでなく、子どもの学習シーンもふんだんに取り入れた映像と、解説書で紐解く。

★Tsubonou et al., (Eds.). *Creativity in Music Education*.

Springer Singapore 2019 A5 279 頁 \$149.99 ISSN 2364-6675, ISSN 2364-6683 (electronic), ISBN 978-981-13-2749-0 (eBook) \$109
21 世紀に求められる創造性(Creativity in the 21st Century)シリーズの一冊。音楽教育が創造性を切り口に、彼らの経験と専門知識をもとに様々な見解を共有する英語本。音楽教育と学習における創造性とは？その向かう方向性など新たな疑問を投げかける。当学会員約 10 人の論文も含まれている。

「ニュースレターは会員のホットな情報交換の場」の方針の下、この頁ではみなさまからの投稿をお待ちします。書籍の他、CD、DVD などのリリースもお寄せ下さい。書誌情報、基本的な音源情報に加えて「である調」90 字程度の紹介文をお願いします。

投稿先アドレス ✉ (半角で) onkyoiku@remus.dti.ne.jp



5 報 告

1 2019 年度第 1 回常任理事会

日 時：2019 年 4 月 28 日（日）14:00 ～ 15:10

場 所：聖心女子大学マリアンホール内 ブルーパーラー

出席者：今川、有本、今田、小川、菅、北山、佐野、島崎、坪能、寺田、藤井、本多（記録）

開会に先立ち、今川会長より挨拶があった。以後、理事会と重複する事項は割愛して報告・審議された。

【審議事項】

1. 2018 年度決算報告及び監査報告（島崎、寺田、今田）

島崎会計担当理事より会計報告が行われた。また、4 月 20 日の会計監査会において適正な会計処理が確認されたとの報告が今田事務局長よりあり、承認された。

2. 2019 年度事業計画及び補正予算について（今田、島崎、寺田）

事業計画案、及び補正予算案についての説明があり、資料の一部訂正を含め、承認された。

3. 2020 年度事業計画及び予算について（今田、島崎、寺田）

2020 年度事業計画案、及び予算案についての説明があり、資料の一部訂正を含め、承認された。

4. 『音楽教育学』の投稿規定の改訂について（今川）

『音楽教育学』に原著論文の掲載数をふやしたいという方向性が確認された。その方向で査読のあり方を検討する必要がある。5 月開催の編集委員会にて再度、検討をお願いし、必要であれば執行部との意見交換を進める。編集委員会の役割と査読体制について、継続的に検討する必要があることが確認された。

5. 持続可能な学会運営のための将来構想について（今川）

安定的な運営のための将来構想ワーキンググループの立ち上げが提案され、承認された。総務担当理事の北山会員、本多会員を中心に新たなワーキンググループを立ち上げる。また、会員情報管理システムの更新を今年度実施する。

<次回会議の予定>

第 2 回常任理事会 2019 年 8 月 4 日（日）14:00 ～ 16:00 於：立教大学



② 2019 年度第 1 回理事会

日 時：2019 年 4 月 28 日（日）15：20～17:20

場 所：聖心女子大学マリアンホール内 ブルーパーラー

出席者：今川、有本、今田、小川、奥、菅、北山、佐野、島崎、玉村（記録）、坪能、寺田、中嶋、
日吉、藤井、本多、水戸、南、村尾、山崎

欠席者：阪井

開会に先立ち、今川会長より挨拶があった。また、今田事務局長より事務局員の紹介があった。

【会務報告】〈2019 年 2 月 17 日以降〉

3 月 15 日 日本音楽教育学会会員名簿発行

3 月 18 日 ニュースレター第 75 号 発行

3 月 31 日 『音楽教育学』第 48 巻第 2 号発行

3 月 31 日 2018 年度会計決算

4 月 20 日 2018 年度会計監査会（事務局）

4 月 28 日 2019 年度第 1 回常任理事会・第 1 回理事会（聖心女子大学）

【審議事項】

1. 2018 年度決算報告及び監査報告（島崎、寺田、今田）

島崎会計担当理事より会計報告が行われた。また今田事務局長より 4 月 20 日の会計監査会において適正な会計処理が確認されたとの報告があり、承認された。

2. 2019 年度事業計画及び補正予算について（今田、島崎、寺田）

事業計画案、及び補正予算案についての説明があり、事業計画案資料の一部訂正を含め、承認された。

3. 2020 年度事業計画及び予算について（今田、島崎、寺田）

2020 年度事業計画案、及び予算案について説明があり、資料の一部訂正を含め、承認された。

4. 第 50 回大会について

以下の提案・説明があり承認された。

- ・ 佐野理事（大会実行委員長）より、日程表・タイムスケジュール（暫定版）、予算案が提示され、併せて会場の手配等準備の進捗状況が報告された。
- ・ 大会テーマは設けない。実行委員会企画のテーマを「音楽教育学を展望する—隣接諸科学からの期待—」とし、3 名の研究者を迎えてシンポジウムを開催する。
- ・ 口頭発表とポスター発表、院生フォーラムをどういう形で行うか（開始・終了時間の設定等）は、エントリーの数等を見ながら調整していく。

- ・ 坪能理事（プロジェクト研究担当）よりプロジェクト研究の準備進捗状況の報告と、当日の運営・進行のイメージの説明があった。当日参加する子ども及び保護者の参加費は徴収しない。保護者は席に余裕があれば会場内で参観してもらう。

5. 第9回夏季ワークショップ（8月11～12日、弘前）について（今田）

今田企画担当理事より、概要の説明と準備進捗状況の報告があり、引き続き準備を進めることが確認・了承された。

6. APSMER について（水戸、今川）

これまでの経過の説明（開催準備委員会委員の委嘱、役割分担）がなされ、今後、会場の候補地の選定、補助金の獲得等準備を進めていくことが確認・了承された。

7. 『音楽教育学』の投稿規定の改訂について（水戸）

改訂案について意見交換が行われ、編集委員会で再度検討をお願いすることとした。必要に応じて執行部との意見交換を行いつつ、審議を継続する。

8. シンポジウム「芸術教育の未来」実施報告（今川）

当日の概要と会計の報告がなされた。関係者を含めて約 220 名が参加、盛会であった。

収支決算は以下の通りである。

収入		支出	
費目	金額（円）	費目	金額（円）
学会から補助	200,000	チラシ印刷費	7,150
		旅費	71,490
		会議費（模擬授業参加学生 31 名茶菓子）	9,072
		謝金（動画編集、機器操作、アルバイト）	62,000
		講演謝金（2 名）	50,000
		当日講演者とスタッフ弁当	15,758
		雑費（振込手数料合計）	1,512
合計	200,000	合計	216,982

9. 学会賞について（今川）

本日 4 月 28 日に選考委員会を開催し、2017 年度、2018 年度発行の学会誌に掲載された 12 本の論文を対象として審査を行い、第 6 回学会賞受賞者を次の通り選出したことが報告、承認された。

- ・ 黒田清子会員、伊野義博会員、権藤敦子会員 対象論文：「音楽文化の視点から教科内容としての「歌うこと」を捉えなおす―ブータンの掛け合い歌に見られる双方向性をてがかりに―」（『音楽教育学』第 47 巻第 1 号掲載）

10. 育志賞の推薦について（今川）

日本学術振興会からの育志賞受賞候補者の推薦について、報告と依頼がなされた。

11. 持続可能な学会運営のための将来構想について（今川）

以下の提案・説明があり承認された。

- ・ 安定的な運営のための将来構想ワーキンググループを立ち上げる。ワーキンググループのメンバーは北山会員，本多会員，中嶋会員，玉村会員と，会長・副会長，及び事務局長。会則や規定類の見直し・整備等を検討する。
- ・ 今年度，会員情報管理システムの更新を実施する。現行のシステムに手を加える形で実施可能。情報公開の電子化，web 化を進めていく。

12. 新入会員及び退会者について（今田）

2 月 17 日以降の新入会員，退会者について報告され，承認された。

個人情報に付き削除しています。

2019 年 4 月 22 日現在 正会員 1577 名 学生会員 6 名 名誉会員 2 名 特別会員 3 名

13. 2019 年度日本音楽教育学会参事の委嘱について（今田）

前年度同様，金崎惣一，高橋憲人，千葉修平，外崎純恵，長山弘，前田一明各氏に委嘱した。

【報告事項】

1. 各委員会等報告

(1) 編集委員会（水戸）

テンプレートの改訂などを進めている旨の報告があった。

(2) 国際交流委員会（坪能）

報告事項なし。

(3) 広報委員会（菅，奥）

ニュースレター 76 号編集の進捗状況の報告，スケジュールの確認，原稿執筆の依頼がなされた。

(4) 選挙管理委員会（水崎→今田）

準備を進めている旨の報告があった。次回 6 月 9 日に開催する。

(5) 音楽文献目録委員会（三枝→今田）

4月6日に委員会が開催された。議事録が示され、審議内容が報告された。

(6) APSMER 開催準備委員会（水戸）

【審議事項】6. で触れた内容以外に報告事項なし。

2. 例会報告（寺田，今田，中嶋，玉村，南〔北山〕，奥，藤井，日吉）

各地区から2018年度例会の報告があった。詳細は今後『音楽教育学』に掲載される（一部は掲載済み）。2019年度第1回近畿地区例会が5月25日に開催される。

3. ISME Professional Association Partnership について（今田）

準備状況が報告された。まだ大きな進捗はなし。

4. 設立50周年記念出版について（今川）

進捗状況が報告された。原稿がすべて揃い、現在初稿の校正を依頼中。

5. その他

会計関連書類，ニュースレター等の年月日表示に西暦を使用することになった。

〈次回会議の予定〉

第2回理事会 2019年10月18日（金）時間未定 於：東京藝術大学



6 事務局より

事務局長 今田 匡彦

1) 第50回大会(大会)事前申込について

学会 web にてご確認ください。

https://conv.toptour.co.jp/shop/evt/50ongaku_tokyo/

<https://onkyoiku50.blogspot.com/>

正会員・特別会員	正会員・特別会員参加費： ￥4,000
大会・情報交換会事前申込期限 2019年9月19日(木)	(当日：￥4,500)
研究発表・共同研究申込必切 2019年6月13日(木)	情報交換会参加費： ￥5,000
* ランチ、宿泊についての案内も掲載されています。	昼食弁当： ￥1,200

2) 年度会費納入のお願い

会費の期限内納入にご協力ください。会費未納の場合、大会での発表、送付物、論文投稿などに支障が発生します。2年間会費を滞納すると自然退会になります。会費納入後、約2週間で事務局より年会費振込の確認メールが自動送信されます。メールが届かない場合は事務局までご連絡下さい。

3) 住所変更、所属機関の変更等は速やかに事務局までお知らせください。

4) 学会誌バックナンバー販売について

昨年度同様、特別価格で販売中です。詳細は学会 website をご参照ください。

5) 事務局について

事務局は月・水・木(9:00～15:00)が開局時間です。亀山さん、若尾さん、宇田川さんに加え、4月から徳山さんが複雑かつ膨大な事務局業務を支えています。今年度もどうぞよろしくお願い致します。

【編集後記】

元号が令和となり、新しい時代が幕を開けました。皆様、いかがお過ごしでしょうか。

本号は、本学会の節目となる第50回大会のご案内をはじめ、他学会の開催情報一覧や APSMER のお知らせ、他にも充実した記事が満載のニュースレターとなりました。素敵な紙面にさせて頂きました執筆者の皆様、ご協力くださった皆様に感謝申し上げます。今後も、国内外の学会・研究会の参加報告や情報、新刊・近刊等紹介など、多数のご投稿をお待ちしております。

新時代第1号の記念すべきニュースレターに携われることを広報委員一同光栄に感じ、さらに充実した誌面づくりを目指してまいります。

(高見 仁志)

投稿先アドレス (半角で) onkyoiku@remus.dti.ne.jp

【日本音楽教育学会事務局】

所在地：〒184-0004 東京都小金井市本町 5-38-10-206

TEL & FAX：042-381-3562 E-mail：(半角) onkyoiku@remus.dti.ne.jp

私書箱：〒184-8799 東京都小金井郵便局私書箱 26 *郵便物は私書箱へ

開局日時：月・水・木 9:00～15:00

事務局員：亀山・若尾・宇田川・徳山